

5 備中ささげハウス栽培適性試験（2年目）

1. 目的・背景

平成 24 年から帯広市川西地域における「備中ささげ」の露地栽培適性試験を実施し、年次変動が大きすぎる結果が得られたので、平成 29 年からハウス栽培での試験検証を行っている。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種 : 「在来種」

(2) 面積および区制 ハウス栽培区 28m²: 畦幅70cm×2畦×20m

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日
沖積土	壤土	ミニトマト	70cm×50cm	ハウス・手竹	5/18

※施肥 5/18 ※1 株 3 粒播き 2 本立。

土改資材	施肥量 (kg/10a)						防除回数	
		肥料名	窒素	磷酸	加里	苦土	病害	虫害
無	基肥 5/18	豆用2号 50kg	2.2	10.5	5.0	2.2	2	2
	追肥 7/27	硫安 10kg	2.1					

※播種後～生育初期にかん水を実施。

4. 試験成績

(1) 生育状況

5月下旬～6月上旬はハウス内が著しい高温・干ばつになったため、かん水を行ったが出芽揃いは不良であった。また、6月中旬以降は低温、日照不足が続き、株の枯死や生育不良もみられた。特にハウスの入り口近くや外側寄りの株に生育不良が多かった。7月27日に窒素追肥（硫安）を実施した。8月に入り生育の回復が見られ、開花期は8月2日と前年並みであった。着莢数は前年より少なかったが、登熟は順調に進み、熟莢率の割合は高かった。根切りは前年より8日遅く10月3日に行った。

生育及び作業ステージ

区分	出芽期	支柱立て	つる上げ	開花期	根切り	収穫（手もぎ）	脱穀
ハウス区	5/26	6/19	7/25	8/2	10/3	9/21～ 10/10	10/25

(2) 収量調査

9月下旬から熟莢の手もぎ収穫を随時行い、自然乾燥の後、10月25日に脱穀調整を行った。

前年に比べ着莢数が少なく、百粒重が小さかったため、10a 当たり製品収量は200.7kg で前年を下回った（前年比64%）。しかし、過去の露地栽培平均収量（58.1kg）と比較すると約3.4倍の高収量であった。

病害虫の発生が少なく、熟莢率が高く、登熟が良好であったことから品質は良かった。

○調査結果

区分	収穫株数 (株)	子実総重量 (kg)	製品重量 (kg)	屑重量 (kg)	1株総 莢数	うち熟 莢数
ハウス区	80	5.95	5.62	0.33	62.1	57.8

○10a 当たり換算収量

区分	総収量 (kg/10a)	製品収量 (kg/10a)	規格外 (kg/10a)	百粒重 (g)	製品率 (%)	外観 品質
ハウス区	212.5	200.7	11.8	15.1	94.5	良

5. 考察

ハウス栽培であったが、出芽、初期生育は異常高温及びその後の長引く低温、多雨、日照不足等の天候不順の影響を受けて良くなかった。しかし、開花期以降は生育の回復が見られ、収量・品質ともますますであった。

製品収量は前年より低かったが、露地栽培の平年収量の約4倍と高く、さらに品質も良好であったことから、ハウス栽培の有効性が確認された。

今後ハウス栽培では、播種後から初期生育におけるかん水方法の確立が課題と考えられる。



5.29 出芽時



8.1 開花始頃の生育



8.1 開花始頃の生育



9.21 成熟期

参考：6年間の収量実績

年	総収量 (kg/10a)	製品収量 (kg/10a)	屑収量 (kg/10a)	百粒重 (g)	製品率 (%)
H30 ハウス	212.5	200.7	11.8	15.1	94.4
H29 ハウス	329	315.2	13.3	18.4	95.8
H29 露地	65	32.2	32.3	16.3	49.5
H28 露地	83	55.7	26.8	15.8	67.1
H27 露地	96	90.7	5.4	17.5	94.4
H26 露地	131	79.7	51.3	16.2	60.8
H25 露地	65	32.0	33.0	16.9	49.2

※ 露地5か年（H25～29）平均製品収量 58.1kg